



沖縄県立首里東高等学

学校だより

第2号



令和7年4月24日（木）

発行者 校長 伊志嶺嘉典

# 東 雲

## ～ 令和7年度 親睦オリエンテーション ～

本校では、新学年の始まりにあたり、各 HR（ホームルーム）内の親睦を深め、生徒たちが安心して高校生活を送れるよう、学校規律や学習への心構えを学ぶことを目的とした親睦オリエンテーションを実施しています。この恒例行事では、エンカウンター、学級目標の作成、遠足の計画といった HR 活動に加え、首里東高校のルール確認、進路指導部や教務部からの講話など、多岐にわたるプログラムを実施しています。新入生に対しては、県立総合教育センターより研究主事を招



聘し、学年全体でバースデーライン、ピンポン玉リレー、チームビルディングなどの活動に取り組みました。初めは緊張した面持ちだった新入生の皆さんも、時間が経つにつれて笑顔で声を掛け合いながら活動に取り組む様子が見られました。互いに支え合い、充実した高校生活を送ってくれることを期待しています。

## \*\*\*サイバー犯罪防止講話\*\*\*

4月21日（月）、沖縄県警察本部少年サポートセンターより玉城涼様を講師に迎え、全校生徒を対象に「サイバー犯罪防止講話」を実施しました。

講話では、SNS 上での安易な投稿が引き起こす可能性のある法的責任について、具体的な事例を交えながら説明していただきました。根拠のない悪口の投稿が名誉毀損罪や侮辱罪に問われ、高額な慰謝料請求に繋がるケース、危険な闇バイトの実態、そして児童ポルノの所持・保管が児童ポルノ規制法で厳しく禁止されていることなど、生徒たちにとって身近でありながらも看過できない重要な内容を学ぶ機会となりました。

近年、児童生徒のインターネットや SNS 利用の低年齢化は深刻な社会問題となっています。その背景には、インターネットや SNS の匿名性の高さと、情報発信の手軽さがあると考えられます。スマートフォンや SNS は便利なツールですが、利用方法を誤れば、予期せぬトラブルや犯罪に巻き込まれるだけでなく、時間の浪費、ネット依存やゲーム依存といった問題を引き起こす可能性もはらんでいます。今回の講話を通して、生徒一人ひとりが情報社会の一員としての責任を自覚し、利便性の高いツールに「使われる」のではなく、「賢く使いこなす」ことの重要性を再認識できたことと信じています。

## リーダー研修

生徒のリーダーシップ、責任感、協調性を育み、学校行事や諸活動を主体的に推進する資質を養うことを目的に、リーダー研修を実施しました。

研修会には生徒会執行部と1学期正副 HR 長の66名が参加しました。校長からの激励、伊禮教頭から「リーダーとは」の講話に続き、参加者全員で、「身なり」や「校内でのスマホ利用」などについて活発な討議を行いました。生徒が主体となって学校が活性化するよう、リーダーの皆さんの活躍を楽しみにしています。

